

「グローバル安全学トップリーダー養成プログラム 活動報告書」
「新地町被災地および相馬共同火力発電所(株)新地発電所 見学」

報告者 柳田 泰宏(理学研究科 M1)

1. カテゴリー

学生自主活動

2. 活動日時、場所

2013年10月19日(土) 9:00-17:00

福島県 新地町役場・相馬共同火力発電所(株) 新地発電所

3. 企画者(複数可、代表者には◎を記載)

機械学会東北支部市民見学会「相馬共同火力発電(株) 新地発電所」への参加。工学研究科祖山均教授より紹介。

4. 参加者など

柳田泰宏(理学研究科 M1)、久利美和(専任教員)

5. 活動目的

福島県の宮城県県境に位置する太平洋に面した新地町は、2011年3月11日の東日本大震災による津波で周辺居住区、漁港、さらに松川浦、大洲海岸などの観光地が浸水域に達した。また浸水区域内には、2つの電力会社(東北電力・東京電力)へ電力を供給する役割を果たす相馬共同火力発電所(株)(新地町発電所)が含まれ、発電設備にも津波による被害を受けた。

今回の活動では、新地町役場付近の沿岸部、相馬共同火力発電所(株)新地町発電所を見学し、被災当時の様子だけでなく、被災を受けた地域・設備の復旧状況への理解を深めることが目的である。

6. 活動概要

新地町の沿岸部の被災地域では、相馬市全体の約41%の住宅に被害が及び、また人的被害の面では救助に参加した消防団員にも被害が出たという役場の方のお話を伺った。また津波被害を受けた土地の整備にはまだまだ多くの資材、資金が必要になることがわかった。

新地発電所では、発電所内の津波被害の動画を視聴し、施設内の被害状況の説明を受けた。震災時、1, 2号機が発電停止という状況に加え、火力燃料である石炭の輸送するための相馬港内の輸送船が座礁するなどの被害が生じた。しかし、H24年3月には1, 2号機は復旧、被害を受けた相馬港も安定供給のため整備を進めているおり、現在、新地発電所では200万kWのフル運転を行えるほどに設備回復ができていくことがわかった。

